



# 大樹

岩田小学校たより No.11

令和3年10月18日

～志をもって 進んで考動する子～

2学期も後半に入り、「つぼみ」のステージが始まりました。先日、10月の会礼があり、リモートで行いました。

## 10月 会礼 校長の話 「心のアンテナ」

みなさんは、この方がだれだか分かりますか？

この方は星野富弘さんです。素敵な絵や、心温まる詩をたくさん書いていらっしゃる方です。こんな素敵な絵や言葉を書く方で、知っている人はその場で手を挙げてください。(作品紹介)

星野富弘さんは、今から約50年前、もとは中学校の体育の先生でしたが、体操の演技を生徒たちに紹介していた時に大変なけがをしてしまい、首から下が動かない身体になってしまいました。けがをしてすぐに手術をし、約1か月の間は人工呼吸器のおかげでなんとか呼吸ができた状態だったそうです。目はあいているけれど、手足は動かない寝たきりの状態で2年以上が過ぎたころ、自分にも何かできるんじゃないかと思い始め、挑戦したのが口にペンをくわえて字や絵を描くことでした。たくさんのお友達からお見舞いの手紙を受け取っていたので、まずはその返事を書きたい、との思いからだったそうです。はじめは「お手紙ありがとう」の文字を何日もかかって書くのがやっとだったのが、だんだんと文字が増え、そのうち枕もとにあるお見舞いの花を描くようになっていきました。周りの人たちから驚かれ、感謝されるうちに「もっとやってみよう」という意欲がどんどん湧き上がってきました。星野さんは当時を振り返ってこんなことをおっしゃっています。

「はじめは別に花が好きで描いていたわけじゃないんです。でも、花を描いているうちに、よく描くということはよく見ないと描けないということに気づきました。よく見ると(えー、こんなふうはこの花はなっていたんだ)という発見がたくさんあって、そのうちに花がだんだん好きになってきちゃったんです」

このお話は、岩田小の合言葉「志をもち 進んで考動する子」にもあてはまるのではないのでしょうか。「考えて、行動する」ためには、よく「見つめて、考える」ことが大切です。日ごろの勉強では、なんでそうなるのか「考えて」いますか？じっくりと考えず、ただ、黒板の文字を書き写したり、文字を読んだりしていませんか。じっくり物事を見つめて、考えると、新しい疑問や発見がどんどんわいてくるはずですよ。

学校生活はどうでしょう。毎日顔を合わせているお友達にも、「あっ、この人にこんな良い面があったんだ。まねしてみよう。」とか、昨日は向陽中、今日は豊田中のお兄さんやお姉さんたちを見て、ぜひ自分もあんな姿になってみたい、というあこがれや希望を持つことが、大切な「志」につながります。靴箱のはきものが乱れていることに気づいて、友だちのはきものまでそろえてくれるお友達がいます。運動会の練習も始まっています。協力して練習する中で、今まで気づかなかった友達のよさにもたくさん気づいてほしいと思います。よく見て、考えて、大切なことに気づくことができるような心のアンテナを大切にしていきましょう。

